

ドレッサージュホースに育てよう!



この記事が掲載される頃には、オースミレブンはMクラスデビューを果たしていることでしょう。昨年はLクラスで浮き沈みの激しいスコアを取っていた調教1年目でした。サラブレッド特有の気性面のコントロールや、この馬の身体的欠陥で点が取れないこともありましたが、現時点でもそれらが解決したわけではありませんが、クラスを上げてチャレンジしていくからには、常にその解決法を探っていかなければなりません。

☞ ショルダーインからハーフパスへ ☜

今回は、ショルダーフォアとショルダーインの扶助を確認しました。決して難しい運動ではありませんし、馬への身体的負担もないので騎乗する度に実施してよいでしょう。ショルダーインの厳密に正しい角度などもありますが、騎乗しながら馬の頭頸の位置や肩の位置をいつも確認し、正面から見て、写真のように外方前肢と内方後肢が一直線になるイメージを持ちましょう。ビデオなどを撮ってもらい、自分の感覚で馬の体勢がわかるようにしておくと思えます。

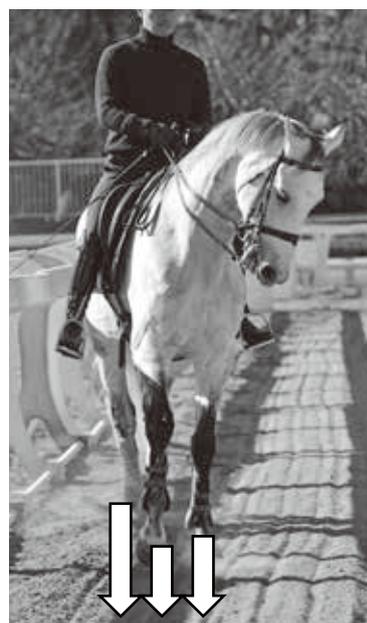
ショルダーインでは、同じ体勢を馬にとらせたら主に内方脚と外方手綱を使って維持します。

◆ ハーフパス (Part I)

ハーフパスは、ショルダーインの体勢から真っ直ぐ進むベクトルを斜め前方へ変更します。その際にショルダーインの体勢を変えないことが重要になります。ハーフパスに入る直前の体勢は、ショルダーインを1~2歩するようにします。

そしてこの運動は、とても難しいと思われがちですが、そうではありません。確かに側方運動が苦手な馬もいます。しかし、そういう場合に限って騎手が馬に無理な姿勢や体勢を要求していることがあります。

オースミレブンは例外ではなく、調教当初からハーフパスが得意とは言えません。しかし、そんな時こそ私は自分自身に「馬の内方姿勢をしっかりとって、横に進む角度を浅くしよう!」と言い聞かせます。それは、「馬の体勢はしっかりとハーフパスの姿勢を保って、斜め前方に行く角度を犠牲にしよう」ということです。角度はトレーニングを積んでいくにつれ改善していきます。



▲ショルダーイン

◆ ハーフパスの扶助

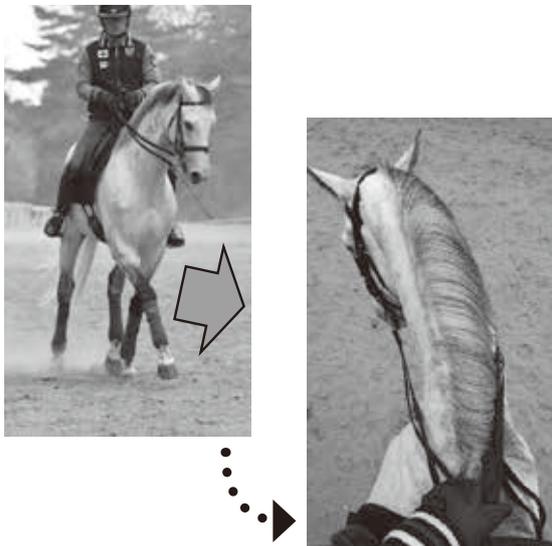
- ・内方手綱…内方への屈曲を作る 頭頸を内側へ
- ・内方脚…腹帯後ろに位置させ必要に応じて体勢の角度の調節に使う
- ・内方騎座…やや内方に乗る意識を持つ
- ・外方手綱…馬の肩の位置をコントロール
- ・外方脚…馬の腰の位置をコントロール 斜め前方に進行させる
- ・外方騎座…馬の動きについていくのみ

◆ ベンディングライン

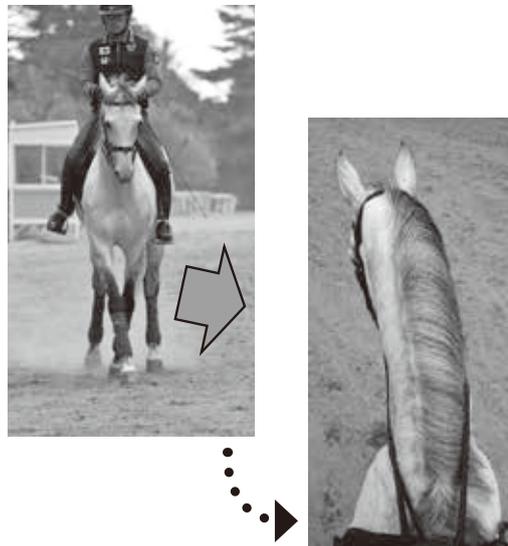
ハーフパスは、真横へ進ませるのではなく、斜め前方に進みます。そのため角度は、グランプリレベルでない限り、さほどきつくはありません。馬がハーフパスの体勢をとって斜め前方へ進むようにするために、必要であれば「腰を内へ」「レッグマイルディング(斜め横歩)」などを行なって調整します。その後、頭頸がサイドに屈曲したベンディングラインを伴ったハーフパスを行います。

斜め前方へ進むための扶助は“外方脚”ですが、注意したいのは外方脚の扶助が強くなることです。そうすると、外方脚→後軀が入りすぎる→馬体の屈曲不足という悪循環に入ってしまいます。ハーフパスは頭頸がサイドにアーチを描くように屈曲し、肩がやや先行していく体勢をとります。そのため、内方脚を軸にするように屈曲させ、内方手綱で内方姿勢をとり、外方手綱で馬の肩をコントロールし、ベンディングラインを保ち必要な分だけ外方脚で進行方向に促します。このベンディングラインを作らずに、レッグイールディングのような体勢でハーフパスをするケースが非常に多く見られます。進行方向への頭頸の屈曲を保って前軀が動きやすい体勢を作ってあげましょう！

① ベンディングラインを持ったハーフパス



② ベンディングラインのないハーフパス



今回は、オースミイレブンで行なったハーフパスのトレーニングパターンや、ハーフパス中に崩れてしまった体勢の調整方法について考えます。